

理事・監事のご紹介 (①理事・監事としての抱負, ②現所属名, 職名, 学位, ③略歴, ④研究テーマ, ⑤趣味, ⑥主な著書, ⑦連絡先 (E-mail), 等について簡単にご紹介します)

<p>理事長 松木 則夫 まつき のりお</p> <p>①ハード(事務局体制)とソフト(活動方針)を歴代理事長により整えていただいたので, 私の役目はその推進力となることと自覚しています. 薬理学および薬理学会の発展ならびに新公益社団法人への移行に貢献していきたいと思ひます. よろしく御指導御鞭撻下さい. ②東京大学大学院薬学系研究科薬品作用学教室, 教授, 薬学博士. ③1974年東京大学薬学部卒, '79年東京大学大学院薬学系研究科博士課程修了, 東京大学薬学部助手, 助教授を経て'97年より現職. ④シナプス可塑性解明を中心とした記憶・学習機構や鬱による脳神経機能変調などについてミクロの解像度でマクロに解析することを目指す. ⑤多趣味だったが, 今は自分の趣味を忘れるほど多忙. ⑥薬と疾病, 医療薬学, 分子生物学, 一般用医薬品概説など(いずれも分担執筆). ⑦ matsuki@mof.u-tokyo.ac.jp</p>	<p>理事 飯野 正光 年会長 いいの まさみつ</p> <p>①第84回日本薬理学会年会長として「新時代への挑戦」というテーマのもと, 生命科学のあらゆる分野を取り込んだ薬理学の新展開を目指すとともに, 企業研究者と若手研究者の企画, さらに男女共同参画関連企画を充実させたいと考えています. また, 第11回東南アジア西太平洋薬理学会の同時開催を契機に国際化を進めたいと思ひます. これらの年会企画を通じて薬理学会のさらなる発展のために, 微力を尽くしたいと思ひます. ②東京大学大学院医学系研究科細胞分子薬理学, 教授, 医博. ③東北大学医学部1976年卒, 同医学研究科博士課程'80年修了. 東北大学助手, ロンドン大学留学, 東京大学助手, 同講師を経て'95年より現職. '07年より東京大学医学系研究科副研究科長併任. ④カルシウムシグナル機構が研究テーマです. とくに, 蛍光イメージング法を活用して, 中枢神経系においてカルシウムシグナルによる細胞機能制御機構の発見と解明を目指しています. ⑥標準薬理学, 標準生理学, NEW薬理学, カutting薬理学(訳)などの分担執筆. ⑦ iino@m.u-tokyo.ac.jp</p>
<p>理事 赤池 昭紀 次期年会長 あかいか あきのり</p> <p>①第85回日本薬理学会年会を国立京都国際会館にて2012年3月14日(水)~16日(金)の日程で開催させていただきます. 大学, 企業等に所属する幅広い会員の皆様に興味をもって参加いただき, 活発な討議の場となるように, これから企画を考えていきます. 皆様からもご意見をお寄せください. ②京都大学薬学研究科薬品作用解析学分野, 教授, 薬博. ③1974年京都大学薬学部卒, '79年同博士課程修了, '80京都大学医学部助手, 同講師, '89年福山大学薬学部助教授, 同教授, '94京都大学薬学研究科教授. ④ニューロン死・再生を制御する内在性因子および天然化合物に関する研究. ⑤ドライブ, カメラ. ⑥実践行動薬理学(金芳堂, 2010). ⑦ aakaika@pharm.kyoto-u.ac.jp</p>	<p>理事 鈴木 勉 総務委員長 すずき つとむ</p> <p>①総務委員長を仰せつかりましたので, 会員増加に繋がるような取り組みを委員の方々と共に考え, 実行できればと思ひています. ②星薬科大学薬品毒化学教室, 教授, 薬博. ③1972年星薬科大学卒業, '79年同大学大学院博士課程修了後, 同大学助手, 講師, 助教授を経て, '99年同大学教授. ('84~'86年ミネソタ大学医学部および米国国立薬物乱用研究所研究員). (通商産業省産業技術審議会専門委員, 厚生省中央薬事審議会臨時委員, 厚生労働省薬事・食品衛生審議会専門委員, 厚生労働省依存性薬物検討委員会委員, 世界保健機関薬物依存専門家委員会委員, 理化学研究所脳科学総合研究センター研究評価委員). ④薬物依存に関する研究, 緩和医療に関する研究. ⑤テニス, スキー. ⑥薬物依存研究の最前線(星和書店, 1999), 緩和医療(東京大学出版会, 2010). ⑦ suzuki@hoshi.ac.jp</p>



2010年6月26日 第4回理事会 主婦会館 プラザエフにて(東京)
前列左より: 矢部, 柳澤, 今泉, 米田, 小口, 松木, 鈴木, 赤池, 馬場, 成宮
後列左より: 仲田, 川崎, 吉岡, 松田, 井上, 石井, 三澤, 芝野, 越川



飯野



大野



高濱

理事・監事のご紹介 (①理事・監事としての抱負, ②現所属名, 職名, 学位, ③略歴, ④研究テーマ, ⑤趣味, ⑥主な著書, ⑦連絡先 (E-mail), 等について簡単にご紹介します)

<p>理事 財務委員長</p> <p>小口 勝司 おぐち かつじ</p> <p>①薬理学ならびに日本薬理学会の発展のために全力を尽くす所存であります。②昭和大学医学部第一薬理学教室, 教授, 医博。③1975年昭和大学医学部卒業, '79年昭和大学大学院医学研究科修了の後, 昭和大学医学部第二薬理学教室 助手, 同年米国カンザス大学医学部麻酔学教室留学, '82年昭和大学医学部第二薬理学教室 講師, 同年英国ケンブリッジ大学薬理学教室留学, '88年昭和大学医学部第一薬理学教室 教授, '01年学校法人昭和大学理事長。④合理的な薬物治療。⑤映画鑑賞, 写真, アイスホッケー。⑥臨床薬理学 (医学書院), エッセンシャル薬理学 (医歯薬出版), わかりやすい薬理学 (ヌーヴェルヒロカワ)。⑦昭和大学医学部第一薬理学教室 TEL: 03-3784-8125</p>	<p>理事 編集委員長</p> <p>米田 幸雄 よねだ ゆきお</p> <p>①今期も編集委員会委員長を仰せつかりました。今までの不徳と不義理へのお詫びの意味合いを込めて, 英文機関誌 JPS の国際的認知度のさらなる上昇に向けて, 精一杯努力する所存です。是非, 最近2年分の JPS 掲載論文の積極的引用をお願い申し上げます。②金沢大学大学院自然科学研究科 (医薬保健研究域) 薬学系, 教授, 医博。③1975年大阪大院薬修了, 同年京都府医大助手, '84年摂南大薬助教授, '97年同教授, '99年金沢大薬教授, '01年同大学院教授。④神経および非神経組織におけるアミノ酸シグナリングメカニズムの解明研究。⑤愛犬との散歩, カラオケ熱唱。⑥ Amino Acid Signaling 04 (編集), 神経薬理学 (分担)。⑦ yyoneda@p.kanazawa-u.ac.jp</p>
<p>理事 研究推進委員長</p> <p>吉岡 充弘 よしおか みつひろ</p> <p>①“Integrative and Organ Systems Pharmacology”を実践できる薬理学者の養成を目的としたプログラムが IUPHAR に発議されています。今後も日本薬理学会として何をすべきか, 何ができるのか議論していきたいと思えます。②北海道大学大学院医学研究科薬理学講座神経薬理学分野, 教授, 医博。③北海道大学医学部 '84年卒, 米国ミシガン大学留学, 北海道大学講師, 助教授を経て '97年より現職。④セロトニン作動性神経系の機能的役割。⑤フルート演奏。⑥系統看護学講座「薬理学」。⑦ flute@med.hokudai.ac.jp</p>	<p>理事 広報委員長</p> <p>今泉 祐治 いまいずみ ゆうじ</p> <p>①前期理事会に引き続き, 広報委員長を仰せつかりました。委員の先生方の協力をいただき, 日薬理誌の編集を中心とした学術広報活動をさらに活発化させていきたいと考えます。②名古屋市立大学大学院薬学研究科細胞分子薬効解析学分野, 教授, 薬博。③東京大学大学院薬学系研究科 旧毒性薬理学講座で1978年に修士課程修了後, 名市大に30年余所属しております。④イオンチャネル分子薬理学, 特に細胞内カルシウム動態制御に関わるイオンチャネル群の機能とその病態での変化およびイオンチャネルを標的とする創薬。⑤創薬関連ベンチャー企業に参画してイオンチャネル標的創薬における新規スクリーニング法の開発・特許出願などを楽しんでいます。⑥薬学テキストシリーズ薬理学 (朝倉書店)。⑦ yimaizum@phar.nagoya-cu.ac.jp</p>
<p>理事 企画教育委員長</p> <p>柳澤 輝行 やなぎさわ てるゆき</p> <p>①薬理学は基礎医学と臨床医学をつなぎ, 薬物治療と創薬科学の基盤です。さらに化学物質と生命の相互作用を知る学問として, 社会に対するインパクトも重要です。薬理学会の発展のために, 力を尽くしたいと思います。②東北大学大学院医学系研究科分子薬理学, 教授, 医博。③東北大学医学部1976年卒, 同医学研究科博士課程 '80年修了。東北大学医学部助手 (第二薬理学, 平則夫教授), ペンシルバニア大学医学部留学, 東北大学講師, 助教授を経て '95年より現職。④循環器系・神経系治療薬の作用機序と標的分子としての受容体, イオンチャネル, 情報伝達系がテーマで, ニコランジル (SG-75) のカリウムチャネル開口作用機序の発見が学位論文。⑤読書, 歴史学。⑥新薬理学入門 (編著), イラストレイテッド薬理学, カutting 薬理学 (監訳), 休み時間の薬物治療学, 循環器病の薬物療法など著書・共著多数。⑦ yanagswt@med.tohoku.ac.jp</p>	<p>理事 年会学術企画委員長</p> <p>井上 和秀 いのうえ かずひで</p> <p>①微力ながら薬理学会の発展に尽力したいと思います。②九州大学大学院薬学研究院 薬理学分野, 教授, 薬博。③1975年九州大学大学院薬学研究科修了, '78年厚生省入省 国立衛生試験所安全性生物試験研究センター薬理部配属, '97年国立医薬品食品衛生研究所 (名称変更) 安全性生物試験研究センター薬理部・第一室長, '00年九州大学大学院薬学研究院・化学療法分子制御学分野・教授 (兼任), '02年国立医薬品食品衛生研究所・代謝生化学部長就任, '05年国立医薬品食品衛生研究所退職, 同年九州大学大学院薬学研究院・薬効解析学 (現・薬理学) 分野 教授就任, 現在に至る。④ATP 受容体の生理機能・薬理作用の研究。⑤読書, 映画, 音楽, 木。⑥NEW 薬理学の分担執筆。⑦ inoue@phar.kyushu-u.ac.jp</p>

理事・監事のご紹介 (①理事・監事としての抱負, ②現所属名, 職名, 学位, ③略歴, ④研究テーマ, ⑤趣味, ⑥主な著書, ⑦連絡先 (E-mail), 等について簡単にご紹介します)

<p>理事 石井 邦雄 いしい くにお</p> <p>①「薬理学とは何か」, 古くて新しい問題です。薬理学は, そして日本薬理学会は, 何を目指し, どこへ行こうとしているのでしょうか。そんな素朴な, しかし根源的な疑問に対する答を模索しつつ, 少しでも薬理学会の明るい未来にお役に立てるよう頑張りたいと思います。②北里大学薬学部分子薬理学教室, 教授, 薬博。③1975年東京大学薬学部卒業, '80年東京大学大学院薬学系研究科博士課程修了(薬博), 同年慶応義塾大学助手(医学部薬理学教室), '87年スタンフォード大学博士研究員(医学部内科・臨床薬理学教室), '88年ノースウェスタン大学博士研究員(医学部薬理学教室), '92年静岡県立大学助教授(薬学部薬理学教室), '97年北里大学教授(薬学部分子薬理学教室)。④網膜循環および網膜神経の生理・薬理。⑤登山, 写真撮影, 読書, 音楽鑑賞。⑥パートナー薬理学(分担), 最新薬物治療学(分担), グッドマン・ギルマン薬理書(訳分担), カッシング薬理学(訳分担)など。 ⑦ ishiik@pharm.kitasato-u.ac.jp</p>	<p>理事 大野 泰雄 おおの やすお</p> <p>①今までの経験を生かし, 広報委員会委員として微力をつくします。②国立医薬品食品衛生研究所, 副所長, 薬博。③1976年に東京大学大学院薬学系研究科で博士を取得。同年国立医薬品衛生試験所(現国立医薬品食品衛生研究所)入所。'82年薬理学会評議員, '94年薬理部長, '05年より現職。同年春の薬理学会関東部会長。④平滑筋の薬理から始まり, 肝/腎における薬物代謝と毒性, <i>in vitro toxicology</i>の研究を行い, 最近は動物実験代替法の評価。⑤歴史やサスペンスに関する読書, 散歩。⑥食品安全ハンドブック(丸善, 2010), トキシコロジー(朝倉書店, 2009), 摘出ヒト組織, 細胞を用いた非臨床研究(エル・アイ・シー, 2005)の編集責任者。⑦ ohno@nihs.go.jp</p>
<p>理事 川崎 博己 かわさき ひろむ</p> <p>①日本薬理学会は, 薬の作用機序解明を通して社会的貢献に重要な役割を果たしています。次世代を担う若い研究者が魅力を持ち, 活躍できる場として, 薬理学会の発展に微力ですが貢献したいと思っています。②岡山大学大学院医歯薬学総合研究科臨床薬学分野, 教授, 薬博。③1969年福岡大学薬学部薬学科卒業, '76年九州大学大学院薬学研究科修士・博士修了(薬理学教室), '78年第一薬科大学薬理学講師, '79年宮崎医科大学薬理学助教授, '80年南イリノイ大学医学部薬理学教室留学, '94年岡山大学医学部附属病院薬剤部助教授・副薬剤部長, '97年岡山大学薬学部臨床薬学教授, '05年~岡山大学大学院医歯薬学総合研究科臨床薬学教授。④血管薬理学, 血管周囲ペプチド作動性神経の機能と循環調節, 血管周囲神経を標的とする抗腫瘍薬開発, 血管作動物質の作用機序, 血管内皮細胞の役割研究。⑤音楽鑑賞, 絵画。⑥疾患と今日の処方(分担)。 ⑦ kawasaki@pheasant.pharm.okayama-u.ac.jp</p>	<p>理事 越川 憲明 こしかわ のりあき</p> <p>①日本薬理学会のさらなる発展のために, 微力ながら貢献したいと考えています。②日本大学歯学部薬理学講座, 教授, 歯博。③1975年日本大学歯学部卒, '79年同大学院歯学研究科修了後, ロンドン大学精神医学研究所研究員, 日本大学歯学部助手, 講師, 助教授をへて, '99年より現職。④オーラルジスキネジア発症に関わる大脳基底核機能の神経科学的・行動薬理学的研究。⑤ワインに合う料理を考えること, ウォーキング, 音楽鑑賞。⑥歯科薬理学, スタンダード歯科薬理学, <i>Transgenic and Mutant Tools to Model Brain Disorders (Neuromethods vol. 44)</i>などの分担執筆。⑦ koshikawa@dent.nihon-u.ac.jp</p>
<p>理事 芝野 俊郎 しばの としろう</p> <p>①新薬を創製するハードルはますます上がっていますが, それを生み出す力はその国の医学, 薬学, 経済全般のレベルに概ね相関すると思います。薬理学を発展させ, 企業の創薬能力を高めるにはアカデミアとの上手な連携が鍵であり, ここに少しでも貢献できればと念願しております。 ②第一三共株式会社 研究開発本部 生物医学研究所長, 薬博。③1978年東京大学薬学部卒, '80年東京大学薬学系大学院修士課程終了, 第一製薬入社, '90~'92年 Baylor 医大(Houston)留学, '04年第一製薬・創薬第二研究所長, '07年第一三共・生物医学第一研究所長, '10年より現職。④心血管系薬理, 抗血栓薬。⑤山歩き。 ⑦ shibano.toshiro.p5@daichisankyo.co.jp</p>	<p>理事 高濱 和夫 たかはま かずお</p> <p>①時間軸をもつ生命体と物質の相互作用を研究対象とする薬理学は, きわめて現代的な学問領域だと思います。薬学の立場から努力したいと思います。②熊本大学大学院生命科学研究部環境分子保健学分野, 教授, 薬博。③1973年3月熊本大学大学院薬学研究科修士課程修了, '87年9月マックス・プランク脳研究所留学, '97年4月熊本大学薬学部教授, '03年4月同大学院教授(~現在)。'04年8月文科省在外研究員(ロックフェラー大)。④咳嗽・排尿反射の薬理, GIRKチャネルの薬理。⑤読書, 絵画・建築鑑賞。⑥ <i>Cough</i> (Eds. F Chung, J Widdicombe, H Boushey), Blackwell Pub., UK, 2003 (分担)。 ⑦ takahama@gpo.kumamoto-u.ac.jp</p>

理事・監事のご紹介 (①理事・監事としての抱負, ②現所属名, 職名, 学位, ③略歴, ④研究テーマ, ⑤趣味, ⑥主な著書, ⑦連絡先 (E-mail), 等について簡単にご紹介します)

<p>理事 成宮 周 なるみや しゅう</p> <p>①前期の理事長として, 今期の理事会にも理事として残ることになりました。これは, 薬理学会の連続性を担保するものです。今期理事会では, 公益法人化の実行など要務があり, 松木理事長には, 日本薬学会の会頭という重責に加えて, 薬理学会の理事長を引き受けていただいております。この意味で, できるだけ, 理事長を支え, また, 前期, 前々期の理事会で, 行ってきたことの趣旨を皆様にお伝えするのが私の役目と考えております。国家財政の緊迫化を背景に学界にも大きな変化が押し寄せ, 薬学6年制化の影響がでるのもこれからと思われまます。理事会の一員として, これらの対処に努力して参ります。宜しくお願ひします。②京都大学医学研究科, 教授 (神経・細胞薬理学分野), 医博。⑦ snaru@mfour.med.kyoto-u.ac.jp</p>	<p>理事 馬場 明道 ばば あけみち</p> <p>①理事としては学術団体としての本会の発展に寄与したい。広報委員会委員として日薬理誌の編集を担当し, 会員増加に貢献したい。②兵庫医療大学副学長・薬学部教授, 薬学博士。③1974年大阪大薬学部・研究科修了, エール大学医学部留学, 大阪大学薬学研究科教授, 同研究科長, 大阪大学理事・副学長を経て, '10年定年退職。同年4月より現職。同7月より, 大正製薬社外取締役を兼任。④新規創薬標的分子の探索・機能評価, 神経ペプチド PACAP の分子薬理学的研究。⑤テニス, 読書, 映画 (ビデオ) 鑑賞。⑥NEW 薬理学, カutting薬理学 (訳) の分担執筆など。⑦ akbaba@huhs.ac.jp</p>
<p>理事 松田 敏夫 まつだ としお</p> <p>①前期に引き続き編集委員会で J Pharmacol Sci の Press Editor を担当いたします。投稿論文の適切で迅速な審査を目指し, 本誌の発展に貢献いたします。②大阪大学大学院薬学研究科薬物治療学分野 (今年度より分野名変更), (兼) 医学系研究科附属子どもこのころの分子統御機構研究センター動物モデル解析部門, (兼) 大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究科, 教授, 薬博。③1972年福岡大学薬学部卒, '74年大阪大学大学院薬学研究科修士課程修了, '76年大阪大学文部技官 (薬学部薬理学教室), '78年同助手, '79~'81 米国エール大学留学, '91年同助教授, '98年より現職。④Na⁺/Ca²⁺交換系の中樞薬理, 神経精神疾患と環境因子。⑤テニス, ジャズ。⑥スタンダード薬学シリーズ (分担), カutting薬理学 (分担)。⑦ matsuda@phs.osaka-u.ac.jp</p>	<p>理事 矢部 千尋 やべ ちひろ</p> <p>①このたび女性理事としてご指名いただきました。現所属大学でも男女共同参画推進に関わる任にあり, これも年回りなのかと責任を感じています。本学会の男女共同参画が少しでも世界標準に近づくよう努力する所存です。②京都府立医科大学大学院医学研究科病態分子薬理学, 教授, 医博。③1980年京都府立医科大学卒業, '84年米国国立保健研究所 (NIH) 留学, '88年国立小児病院小児医療研究センター研究員, '91年同中毒副作用研究室室長, '96年京都府立医科大学薬理学教室教授。④活性酸素産生酵素 NADPH オキシダーゼの関わる分子機構。⑤猫 (ノルウェー・ジャン) のグルーミング。⑥糖尿病合併症治療のイノベーション (堀田 饒編) 医薬ジャーナル社。⑦ nchihiro@koto.kpu-m.ac.jp</p>
<p>監事 仲田 義啓 なかた よしひろ</p> <p>①日本薬理学会が松木理事長のもと, 「公益社団法人化をめざし, 学会の目標である医学, 薬学と企業のインターフェイスとして捉え, これを年会活動と雑誌刊行で具現化していく」活動に, 監事として微力ながら貢献したいと思っております。②広島大学大学院医歯薬学総合研究科薬効解析科学講座, 教授, 薬博。③1975年広島大学医学部薬学科卒, '77年同大学院薬学研究科修士課程修了, '83年薬学博士 (京都大学), '86年広島大学助教授, '91年広島大学教授 (総合薬学科), '06年広島大学院教授 (薬学部) より現職。④中枢神経組織での神経ペプチドの機能解明。⑤スポーツ特にサッカー観戦。⑥標準医療薬学「薬理学」分担, グッドマンギルマン薬理学 (訳分担)。⑦ ynakata@hiroshima-u.ac.jp</p>	<p>監事 三澤 美和 みさわ みわ</p> <p>①薬理学が分枝していく中で, 母体の薬理学会が次第にやせ細っていき, 薬理学自体のアイデンティティーにも自信を失いはじめているむきがある。しかし薬理学の重要性は薬と患者がある限り変わらない。むしろ開発される薬がますます多岐にわたり, 治らなかつた病気まで治療の及ぶ時代になり, 重要性は増していく一方というべきであろう。医師や薬剤師への薬理学教育と研究を預かる者の責任は重い。②星薬科大学薬理学教室, 教授, 薬博。③東京大学薬学部卒, 同大学院博士課程修了, 星薬科大学講師, 米国カンザス大学医学部薬理学教室留学, 星薬科大学教授。応用薬理研究会, 日本薬史学会 (常任) 理事。④気道の薬理学的研究, 薬史学研究。⑤樹木, 草花, 野鳥, 写真, 読書, スキー, パレーボール, 和歌。⑥カutting薬理学 (訳)。⑦ misawa@hoshi.ac.jp</p>